

鮮やかな朱塗りの山門  
数多くのお像が並ぶ

つつじヶ丘駅の北側、甲州街道から続く参道の先に、両脇に黄金の仁王像を携えた鮮やかな朱塗りの山門を誇る金龍寺があります。建永元年（1206）明庵千光国師栄西禅師により開基され、文禄3年（1594）世田谷勝光院六世乾晨寺三世岳応守英大和尚が曹洞宗寺院として開山。慶安2年（1649）には寺領13石4斗の朱印状を拝領しています。

本尊は釋伽牟尼佛。脇侍佛は文殊菩薩・普賢菩薩。源義経、弁慶らもこの地で休したと言われるほか、徳川家光將軍も狩猟の途次に休憩し「深谷山」の号を付したとされる、由緒正しき古刹です。

境内には源頼朝の祈願によるとされる閻魔十王の石像をはじめ、大慈悲觀世音菩薩の像、十八阿羅漢尊者像他多くの像が立ち並び、とても壮観です。ぜひ訪れてみてくださいね。



鮮やかな山門と壮観な仁王像

注目スポット

★ 金龍寺の境内には、リス小屋があり、愛らしいリスが訪れる人々を癒しています。

★ 鮮やかな朱色の山門には、徳川の御紋があるので見つけてみてくださいね。



様々な像が並ぶ  
(奥は慈母觀世音菩薩)



閻魔十王が納められる石窟。  
上には閻魔大王が。



本堂



十八阿羅漢尊者像  
(写真は迦理迦尊者像)

